

令和5年度 国内研修報告

小牧市立小牧西中学校 川村 光江

研修テーマ

養護教諭の不登校生徒に対する働きかけについて
～生徒の社会的な自立を支援するために～

1 研修のねらい

令和5年2月14日（水）に行われた、不登校に関する調査研究協力者会議（第6回）において、文部科学大臣より「不登校対策の検討にあたっての方向性」が4つ示された。その内、以下の2つの方向性について、先進校の実践を元に学び、本市・本校の取組につなげたい。

- 不登校の生徒の学びの場を確保し、学びを継続する。
- 生徒の心の小さなSOSや変化を見逃さず、『チーム学校』で支援する。

2 研修報告

（1）岐阜県岐阜市立草潤（そうじゅん）中学校

中部地方で唯一の公立の学びの不登校特例校（旧：学びの多様化学校）として、令和3年4月に開校した。「ありのままの君を受け入れる新たな形」をモットーとしている。

この学校では、生徒の毎日の心の有り様を掴むためタブレットのアプリを使い、その結果を全教員が共有しながら個に応じた指導を行っている。生徒の心の小さなSOSや変化を見逃さないようにすることの大切さ学ぶことが出来た。

〈概要〉

- ・ 年間授業時間数は、770時間である。
- ・ 1日4時間。始業前にウォームアップの時間、終業前にクールダウンの時間を設け、生徒が自分で選んだ担任の先生（この学校では生徒が担任を選べられるシステム）と、一日の学習の予定を確認したり、一日を振り返ったりする。
- ・ 2週間に1回程度、学習相談として登校する「家庭での学習を基本とする学びのモデル」
1週間に2日程度の登校を基本とした、「家庭で学習し、週に数日登校する学びのモデル」
「毎日登校する学びのモデル」の3つのモデルの中から、自分に合わせて選択できる日課となっている。
- ・ 体育以外の技能教科をすべて合わせてセルフデザインの時間とし、一人一人が自分の興味関心のある技能教科に取り組んでいる。
- ・ 生徒はどこで学習してもよい。ただし、どこで勉強しているかを明らかにするために、「イマここボード」に所在場所を示すことになっている。
- ・ 国語・数学・英語に関しては全時間複数の教員で個のペースに合わせて支援している。週2時間ある総合の時間は体験活動や各種イベントを行っている。



【図1 イマここボード】

- ・ 授業では、教室の中の席を自分で決めることができる。また、学習場所も選べるため、学年をまたいで授業を受けてもよいシステムになっている。自分で決めて学習ができるため、安心できる居場所や時間がある。(例：3年生の生徒が2年生の教室に行き、2年生の授業内容を対面で受けることができる)

- ・ どの教室を回っても、生徒の机の上には色のサインコーンが置いてある。「先生…」と声を上げるのが苦手な生徒もいるので、机の上に今の自分の気持ちを表すサインコーンを置くのである。今は、話しかけてくれても、当ててくれてもいい生徒は青色コーン、教えて欲しい、助けて欲しい生徒は黄色コーン、話しかけや近寄りなどを含め、何もしないで欲しい生徒は赤コーンを机の上に置いて、各自意思表示している。



【図2 サインコーン】

- ・ 毎日、登校時・下校時にキールームあるタブレットで、今の心の天気を入力したり、一日を通して、天気が変わるきっかけになった出来事について入力したりして、個の理解に努める。職員室にタブレットがあり、入力後すぐ反映されるようになっているため、生徒のその日の状況や気持ちが大きく変化する様子までよく分かるようになっている。

その他にも、今日はどのような方法で登校したか、朝ご飯は食べたかなども入力することになっている。

草潤中学校の生徒出席表
2023年5月17日の出席

氏名	登校	欠席	遅刻	早退	理由	備考
11	2	2	1	1	9:46	1
12						
13						
14	2	4	1	1	9:18	1
15	2	2	3	1	9:43	3
16	2	1	1	1	9:28	1
17	2	2	3	1	9:37	3
18	2					

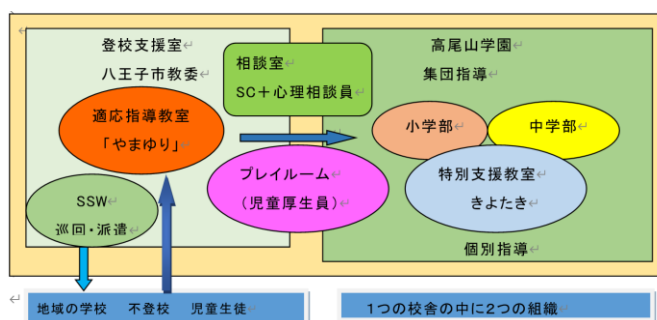
【図3 心の天気集計表】

(2) 東京都八王子市立高尾山学園中学校

不登校児童生徒に合った教育課程を実現する小中一貫校として構造改革特区を活用し、2004年4月に開校した。翌年、学校教育法施行規則の一部が改正されたことを機に、全国で最初に設置された学びの多様化学校である。現在は、登校率70%、進学率95%を誇っている。

この学校では、登校支援室と学園の連携が素晴らしい。適応指導教室“やまゆり”に所属して学園に通いたいという気持ちが芽生えた生徒のみ、高尾山学園に通えるシステムになっている。

毎朝、打ち合わせの時間を30分以上使って、一人一人の生徒の情報交流を行っている。その際に、日ごろから該当生徒に関わっている先生から、「この子には、このように声をかけてください。」と具体的に先生方に伝えられ、教員が共通理解をしてから指導に当たることになっている等、「チーム学校」で支援する大切さを学んだ。



【図4 高尾山学園と関係機関の連携図】

また、受けている授業がつまらないと生徒が教室から出て行ってプレイルームに行ってもかまわないことになっているため、教員も魅力ある授業づくりに心がけるようになった。

多くの関係者が生徒に関わりながら指導を行ったり、生徒に分かりやすい楽しい授業研究を行ったりしながら不登校を減らすように取り組む先生方の姿に共感がもてた。

先生たちの合言葉「打倒！プレイルーム」

〈概要〉

- ・ 年間授業時間数は、760時間である。
- ・ 1日5時間授業。教材の工夫、コース制学習、補修体制、高尾タイム、体験講座など、個の特性を理解した集団指導をこのペースで行っている。
- ・ 登校支援のため、生徒が楽しい、嬉しいと感じられるように、授業中の居場所をつくったり、授業改善を図りわかる楽しさや知的好奇心が高まる工夫をしたり、体験活動を増やしたりと様々な登校刺激を行っている。

(3) 東京都東京シューレ葛飾中学校

フリースクールを前身とし、2007年4月に開校した、定員120人の私立中学校である。

この学校では、「不登校は治したり克服したりするような問題行動ではない。個性をもった一人一人の生徒が、学校に行くか、行かないかを選んでいる。」を合言葉に、親の会などが積極的に活動している。また、タブレットを活用したオンライン授業もあれば、登校して学習することもできる。不登校の生徒の学びの場が確保されているシステムの素晴らしさを学んだ。

〈概要〉

- ・ 年間授業時間数は、945時間である。
- ・ インターネットを利用した家庭での学習が中心の「ホームスクールコース」と、自分に合った校内での過ごし方・学び方をすることができる「マイコース」がある。文科省が認めている「IT等を活用した在宅学習を出席扱いにする制度」も積極的に取り入れている。

(4) 神奈川県星槎（せいさ）中学校

2005年4月に開校された。星槎グループとして全国に展開している学びの多様化学校で、「星槎の心＝三つの約束（人を認める・人を排除しない・仲間を作る）を軸に、人としての生き方やあり方を考え、共生社会の創造を目指す「共感理解教育」を通して教育活動が推進されている。

この学校では、入学時にWISCを受けて、個人の特性や得意・不得意を把握した上でクラス分けが行われている。また、毎週月曜日にSSTの時間が位置づけられ、対人関係の状況に応じた適切な振る舞いや、社会生活を営んでいくために必要なスキルを養っている。

毎日行われるステラプランの時間（個別支援計画作成運営システム）では、タブレットを使った振り返り機能により、生徒自身が目標を評価したり、その場でフィードバックをしたりしている。それを、教員が、褒めたり認めたりすることによって、生徒の自己肯定感が上がっている。保護者も、今日子どもがどのようなことをして一日を過ごしてきたのか、何を頑張ったのかが一目で分かるので、家庭での声掛けにも生かしていることが素晴らしいと思った。生徒の心の小さなSOSや変化を見逃さない努力がなされていた。

〈概要〉

- ・ 学びの多様化学校ではあるが、1日の授業数は6時間と一般の学校と変わらない。
- ・ 入学前に、全員にWISC-IVを実施し、本人の特性を理解したうえでクラス編制を行う。クラスの中で、自閉傾向が強い生徒、落ち着かない生徒、他者の気持ちが分かりにくい生徒など、本人の苦手さを理解した上で、得意な部分を伸ばす個別指導計画（IEP）が作成されている。
- ・ 毎日、生徒は「ステラプラン」を活用して、教員と一日の振り返りを行っている。保護者も毎日閲覧ができ、生徒が何をどのように頑張っていたのかを視覚的に、具体的に、確認することができる。

（５）愛知県岡崎市立甲山中学校

愛知県岡崎市の校内フリースクール「F組」は、２０２０年度に市内の公立中学校３校に設置された中で、いち早くF組を取り入れた学校である。

この学校では、校長先生がF組について話されたことが心に残っている。「校長として、私がF組に一番に期待していることは、『教員の変容』です。F組の生徒と教員が関わることで生徒を「受け入れ、包み込む」という深い生徒理解ができるようになったことです。」

一般の学校において、不登校にかかわるのは、該当クラスの担任や学年主任が主だが、この学校ではF組にすべての教員が関わるシステムになっている。そのため、教員は、F組の生徒の様子を見たり、会話をしたりしながら過ごすことによって、F組にいる生徒は決してダメで、怠けている生徒ではないことを学習していく。この生徒にはこんな素晴らしい点があるのだと個の良さを見つけることができるようになる。そういった生徒観が校内に波及し、より良い学校風土が醸成されていく。不登校生徒に対する教員の意識改革が大切だという事を改めて学んだ。

〈概要〉

- ・ 前面の黒板や、個別のブースを作っている衝立にも、生徒の絵や作品が飾られている。机も真四角ではなく、ひょうたん型や丸形など座る人数が固定されない柔軟性の高いものが置いてある。
- ・ F組としての時間割が決まっており、該当の教員が来る。その時間は、自分で決めた教科を学習してもよく、授業に参加することを強制はされない。



【図５ F組の様子】

- ・ すべての教員の授業時間が２０時間に設定されている。技能教科の担当教員等から「空き時間が少なくなる。」といった理由で当初は反発もあったが、校長先生の指導のもと、９教科の教員が平等にF組に割り当てられ、必ずF組に行き生徒と関わりがもてるように時間割が細かく組まれている。
- ・ 授業には参加したいと思ってはいるものの、集団での生活に戸惑いを感じている生徒もいるので、そのような生徒がF組内で、在籍学級の授業をオンラインで参加することができるようになっている。また、他学年へのオンライン参加も可能であり、学び直しを行うこともできる。
- ・ 一人１台のタブレット端末には、小学校から中学校の学習を網羅している学習ソフトが入っており、それを利用し、学び直しができるようになっている。
- ・ 活動の時間として、卓球やバドミントン、調理実習などの技能教科を学ぶ機会を多く取り入れている。生徒自身が自分の「強み」や「やりたいこと」を探すことにもつながっている。

（６）京都府京都市立洛友中学校

様々な事情により義務教育を修了できなかった人への教育保障を行う夜間部（二部学級）の生徒と、不登校を経験した昼間部（学びの多様化学校）の生徒が、世代や国籍を超えて、ふれあい、学び合う全国初の学校である。２００７年４月に開校された。（参考：京都市教育委員会 HP）

この学校では、「学びたい」という生徒の願いに応える学校で、昼間部と夜間部の２部学級の生徒がふれあいながら、共に学ぶ。「学ぶとは何か」「人は何のために学ぶのか」など、

校時表		
学活	13:30-13:40(10分)	昼間部
1校時	13:40-14:30(50分)	
2校時	14:40-15:30(50分)	
3校時	15:40-16:30(50分)	
4校時	16:35-16:55(20分)	
5校時	17:00-17:30(30分)	夜間部
6校時	17:30-18:15(45分)	
給食	18:15-18:50(35分)	
7校時	18:50-19:35(45分)	
8校時	19:40-20:25(45分)	
学活	20:25-20:40(15分)	

【図６ 校時表】

学びの原点を学んだ。

〈概要〉

- ・ 昼間部の生徒は、13：30に登校し、6校時に下校する。
- ・ 5校時は、昼間部・夜間部生徒の交流学习が行われる。
- ・ 火・木の5・6校時は昼間部・夜間部合同授業が行われる。
- ・ 性別・母語・年齢・卒業形式等を配慮した学級編制が行われている。
- ・ 不就学・小学校教育未修了の生徒も在籍する実態に対応するため、指導内容の範囲は、小学校1年生から中学校3年生までの9カ年にわたる。
- ・ 幅広い生徒層が在籍しているため、学年混在の学級編制が行われ、各学級には担任がおかれている。
- ・ 実技教科は、昼・夜間部約半数の生徒により学級編制されている。グループ学習・個別指導の工夫を行って学力の充実を図っている。
- ・ 国語は日本語の習熟を配慮した4学級編制。国語科の教員と日本語指導教員が協力して、日本語の基礎を中心とした指導から中学3年生までの内容を行っている。
- ・ 数学・英語は学力に、日本語の習熟を加味した3学級編制、理科・社会は日本語の習熟に合わせた4学級編制。免許外教科担任を申請し、複数学級に対応している。
- ・ 全学級の授業に、学習支援にボランティアが入る。
- ・ 課外活動時間に日本語教室を開講している。

3 研修の学びと今後に向けて

今回の研修で参観させていただいたどの学校の生徒も、生き生きとしてとても楽しそうであった。それは、学校が生徒にとって「安心して学べる」場になっているからだと思う。学びの多様な学校等で実践されている多くの内容を、本校や本市において取り入れていくことが不登校児童生徒の出現率の低下につながると確信した。

○ 不登校の生徒の学びの場を確保し、学びを継続するために

- ① 教室以外にも登校できる学びの場の確保することや、登校できない場合でもオンラインで授業に繋がり、学びを継続できるようにすることが大切である。

GIGAスクール構想のもと、一人1台タブレット端末が配備されているので、「どの子ども、どこでも授業が受けられる」、「いつでも学び直しができる」といった環境を整えるため、タブレットを毎日家庭に持ち帰らせたい。このことは、個に適した学びの環境を選択することにつながるだけでなく、生徒の能動的な学びができるようになる。また、SNSの正しい使い方を家庭でも話題にすることが増えたり、インフルエンザ等で学級閉鎖が起きた場合でも、家庭での自学がスムーズにできたりするなど有効活用が図れる。

- ② 学校を、個の良さを生かした主体的な学びがあり、誰もが活躍できる機会や出番がある安心な場所とすることが大切である。

そのためには、まず日々の授業の質を高めることや、教員による認め励ましなどが日ごろから行えるようにしたい。そして、生徒に寄り添い、生徒が自ら学ぶ姿や自立していく様子を見守ることが大切である。特に、誰一人として取り残されない学校づくりや生徒の多様な教育機会の確保が大切だと改めて考えさせられた。

○ 生徒の心の小さなSOSや変化を見逃さず、「チーム学校」で支援するために

① 我々は生徒の日々の心の中まで見ることはできない。少しでも早い段階で生徒の内面をつかむためにアプリを積極的に導入していけるとよい。

研修した学校の多くでは、生徒一人一人の毎日の心の有り様等を知った上で、適切な声掛けや指導が効果的に行われていた。まず毎朝の生徒の心情を知ることが大切だと学んだので、早速本校でも、ロイロノートを利用した「健康観察カード：（西中版）心の天気」をICT支援員の協力のもと作成し活用している。実施して1年未満だが、生徒にも「自分の見つめる時間になる」と好評である。教員も「えっ!? この子が…」と意外な生徒の心の変化を見つけることも多く、生徒の内面を知るのに非常に大きな成果を上げている（図7・表1）。

健康観察カード

あてはまるものの○を付して毎日提出してください。

健康観察は、自分の心と体の気付きを促すものです。今日の状態を正確に記録しましょう。

月曜日 6/5	火曜日 6/6	水曜日 6/7	木曜日 6/8	金曜日 6/9
①今日の心の天気は？	①今日の心の天気は？	①今日の心の天気は？	①今日の心の天気は？	①今日の心の天気は？
②今日の体の調子は？	②今日の体の調子は？	②今日の体の調子は？	②今日の体の調子は？	②今日の体の調子は？
③相談したい先生は？	③相談したい先生は？	③相談したい先生は？	③相談したい先生は？	③相談したい先生は？

【図7 ロイロノートを活用した健康観察カード：（西中版）心の天気 】

					相談希望者	相談したい人
1年生	390	160	16	4	6	担任(2名) 主任(3名) 保健室(1名)
2年生	463	110	7	1	2	保健室(2名)
3年生	398	112	62	8	4	担任(3名) 保健室(1名)
合 計	1,251	382	85	13	12	

【表1 5日間の各天気の延べ人数等 】

② 学年や担任だけが不登校生徒を囲い込むのではなく、様々な関係機関等を活用するための組織を見直し、その組織を積極的に活用し対応していくことが必要である。

私たち教員は、不登校の生徒が出ると「困ったな、大変だな、不登校を出した自分は教員としての資質を問われる。」と思いがちで、不登校生徒の対応を担当や学年が抱え込んでしまう傾向がある。それで解決していけばよいが、なかなか思うように進まないことが多い。そこで、もっと関係機関を含め多くの専門家がチームとして関われるように今ある組織を見直し、より効率的に動けるようにするべきである。

③ 個々の生徒について、教員間の共通理解を図ることや対応の仕方、不登校生徒の見方を学び直す教員研修が非常に大切である。

教職員のコミュニケーション能力や不登校生徒等に対する考え方などによって不登校生徒に対する指導や、保護者対応に差が出ている場合が多く見られるため、不登校生徒に対する見方・考え方や具体的な対応の仕方等について、改めて研修を行い教職員の意識改革や力量を高めていく必要性を感じている。



【図8 OJTの様子】

OJT資料

2023. 6

養護教諭 川村光江

1 なぜ、今、不登校について取り上げるのか。

(1) 教育機会均等法

(2) 少子化にも関わらず、不登校生徒の増加

(3) 3月に文科省が緊急提言 総合的な不登校対策の3本柱と4つの方向性

3本柱

柱1 不登校特例校の設置促進

柱2 不登校の危機の早期発見・早期支援

柱3 予防的な不登校対策の推進

4つの方向性

① 不登校の生徒すべての学びの場を確保し、学びを継続できるようにする。

② 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する。

③ 学校を「みんなが安心して学べる」場所にする。

④ ICTを活用し「不登校」を科学的に把握する。

2 本校の状況

(1) 不登校、不登校傾向の生徒数

(2) 先生方の意識や行動

(3) 学校体制

3 研修視察の途中報告（訪問先）

(1) 岐阜市立草津中学校 中部地区唯一の不登校特例校

① 学校のコンセプト

② 特徴ある取組

(2) 八王子市立高尾山学園 全国に先駆けて創られた不登校特例校

① 学校のコンセプト

② 特徴ある取組

(3) 学校法人東葉シューレ

① 学校のコンセプト

② 特徴ある取組

4 研修をして、今後、取り組んでいきたいこと

(1) 教職員として

(2) チーム西中として

【図9 OJT 資料のレジュメ】

- ④ 生徒のことを第一に考えられる教職員を育てるには、よりよい学校風土を作り上げることが大切である。

学びの多様化学校に在籍する多くの教員は、不登校専門の教員ではなく定期異動で転任してくる。その教員がいきなり、生徒への寄り添いのプロになれるわけではない。不登校の生徒と関わる中で、生徒に深く寄り添うことの大切さを学んでいく。その時に大切なのは、生徒の成長を信じひたすら見守り、社会的に自立することを目指す学校風土が醸成されていることだと考える。

学校風土は改善できる要因であるとの視点に立ち、管理職を中心に、生徒が安心して学べる学校風土が醸成されることを期待したい。

- ⑤ 学びの多様化学校や岡崎市が設置したF組のような学級を、小牧市においても設置してもらうことを期待したい。

上記④で述べたように、教員が不登校生徒と関わることによって、生徒に対する見方や負の意識を変えていくことに繋がり、そのことが本市の不登校生徒の出現率を抑えることができるのではないかと思う。

- ⑥ 今回の研修で学んだことを還元するために、私は本校においてOJTを行った。

図9に示した内容で、教職員の不登校生徒に対する意識改革ができるような研修を進めた。また、生徒一人一人の毎日の心の健康度を把握するためロイロノートを活用して「健康観察カード：（西中版）心の天気」を作成し実践を続けている（図7，表1）。

本校での実践の結果、生徒や先生方に意識の変容が少しずつ見られるようになり、令和5年度10月末現在、本校の不登校生徒数は、3名（1.2%）に抑えられている。

小牧市全体の不登校生徒数を減らすためにも、まず小牧西中学校から不登校の生徒を減らしていきたいと考えている。